

# Freude

vol. 8 - 11 2016. 4. 27. wed

GWはお楽しみしてね!

★受(け)に(て)熊本(の)募(募)金(金)相(相)あ(あ)い(い)の(の)  
5/4旬(旬)を(を)受(受)け(け)赤(赤)十(十)字(字)入(入)る(る)予(予)定(定).

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B  
ホームページ <http://www.osakafreude.com>  
メールアドレス [info@osakafreude.com](mailto:info@osakafreude.com)

4/20の練習メモ



譜面をみて D324・Sanctus 全部 P. Benedictus <sup>P.47</sup> [41] ~  
D167・Sanctus a P.38 [9] 小節目まで

▶ D324の楽譜の変奏? Benedictus <sup>P.47a</sup> [45] 小節目

45

S  
A  
T  
B

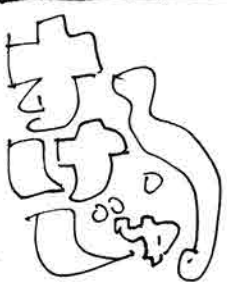
o - san-na in ex - cel - sis De - o, o - san-na in ex-cel - sis De - - o!

↑  
この音で Sanctus P.41 [4] 小節目まで  
同じ音で以下

Sanctus P.41 [4]

o - san-na in ex - cel sis De o, o san - na in ex - cel - sis De o!

※楽譜のあはれ方とは... (注: 楽譜のあはれ方とは、楽譜の構成やリズム、メロディの進行などをよく観察し、その特徴や魅力を理解することです。)



5/4 (水)	5/11 (水)	5/18 (水)	5/25 (水)	5/29 (日)
お	18:30 ~	18:30 ~	18:30 ~	13:00
ア	雑居3F	雑居3F	雑居3F	+
カ	PM7	PM7	23:27 ~	習習は
キ	PM7	PM7	27分	AM ~
				練習

5/13 練習会

## シューベルトのミサ 2番と3番の歌詞 👉👉👉 voice 投稿もらってます!

シューベルトのミサ 2番、3番の歌詞をヒントにして古典派からロマン派に移る時代背景や、シューベルトが置かれた環境について考えてみました。

ミサは Kyrie—Gloria—Credo—Sanctus—Benedictus—Agnus Dei の6曲から成り、どの曲も典礼文で定められた言葉が使われています。

モーツァルトのミサ KV 275 では Gloria と Credo の頭のところでそれぞれ独唱「Gloria in excelsis Deo」「Credo in unum Deum」が歌われたあとから曲が始まります。

ところがシューベルトのミサ 2番、3番の両方とも曲の中で初めの言葉が出てきます。

教会でのミサを行う形式によらない形で作曲できた時代背景にあるのか、シューベルトの意思によるものか、もしくはその両方でしょうか？

また、モーツァルトでは厳格に典礼文がそのまま使われていますが、シューベルトでは言葉の省略や追加が見られます。

Gloria では2番で「Qui sedes ad dexteram Patris」(父の右側に座るあなたよ)が使われていません。ただし、Credo には「sedet ad dexteram Patris」という部分があり、曲の構成上の問題だと思われます。

また、3番は「suscipe deprecationem nostrum」(我々の願いを聞き入れたまえ)が使われていません。

次に Credo ですが、2番、3番とも「Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam」(そして、唯一の聖なる万人のための使徒継承の教会を(私は信じる))という部分が使われていません。カトリック教徒であったシューベルトが意識的にその部分を使わなかったのか、曲の構成上によるものかはしばしば議論になるところです。また、3番では「Consubstantialem Patri」(父と一体なり)や「Simul adoratur」(共にあがめられる)といった三位一体説をうかがわせる部分も省略されています。

そのほかにも2番では「Et expecto resurrectionem mortuorum」(そして私は死者らの復活を待ち望む)というくだりも mortuorum 以外は省略されています。シューベルト本人しか知りえないことですが、作曲の数年前に亡くなった母親や幼くして亡くなった兄弟(14人兄弟のうち成人したのはシューベルトを含めて5人のみ)の影響を考えてしまいます。

さらに、2番では「Credo」(信じる)が曲の後半で追加されています。

また、Sanctus では3番の最後に「Deo」(神)が追加されて、それらの言葉がより強調されているように感じます。

以上のように典礼文の原文とは少し異なっていますので歌うときに注意が必要です。

---

by B.おれまじん ♪